

わたなべひでゆき
作曲 渡邊秀之さん

プロフィール

音楽科教諭として宝梅中学校や中山五月台中学校（途中教育委員会でも勤務）に赴任され、吹奏楽部顧問としては全日本吹奏楽コンクールで8度の金賞、こども音楽コンクール・日本管楽合奏コンテストでも文部科学大臣賞全国第1位を6度受賞されるなど、宝塚市吹奏楽団を含めて全国大会に40回導かれています。

現在は大阪音楽大学特任教授、宝塚市吹奏楽団音楽監督、宝塚市吹奏楽連盟会長を務められる中、中山五月台中学校の吹奏楽部は退職後も引き続きご指導されており、2021年度も全日本吹奏楽コンクールに導かれました。吹奏楽に関する著書や全国各地からの講師・審査員に招へいされるなどご活躍されています。

宝塚市立中山台小学校 校歌について(曲に込めた想い)

① 『詩との出会いから作曲への想い』

詩を読ませていただき、中山台地区の自然の豊かさ、そして遥かに臨める瀬戸内の光る海の美しさ、さらに「学び」を通して楽しく、健やかに成長していく子ども達の姿を感じ取れました。そのような情景を想い浮かべながら「中山台小学校一校歌」を創作させていただきました。

② 『歌いやすく、親しんで歌ってくれる校歌への想い』

小学校の校歌は低学年(7歳)から高学年(12歳)という広い生育年齢差の子ども達が歌う曲となります。

児童の発声や音域・音程感については五月台・桜台の2校小学校の音楽教員からもご意見をうかがい、歌いやすい音程感、音域も8度内(1点二~2点二)を大切にしました。

旋律や和声も子ども達にわかりやすく、中山の美しい環境をイメージして歌えるように組み立てました。最終部は高音・低音という各児童の声質の個性が出せるように合唱としての楽しみも加えました。ハーモニーは歌いやすい3度音程を基本にしています。

中間部の楽しい歌詞のところは、楽しく歌えるリズムや伴奏型にしました。また、ピアノは演奏が得意な児童(高学年)であれば、弾けるであろうレベルの楽譜としました。

③ 『個性ある校歌創作への想い』

最終部分の合唱に入る前(=18小節目の4拍間)は「呼びかけ」を入れることのできる「間奏部」としました。(作詞者にも了解を取っています)ここは歌のない「ピアノ SOLO」にしており、F音/D音(2点^/こ)から、1オクターブ下のF音/D音まで、8分音符による3度和声の下行型として間奏を入れました。この部分は児童や教員による「創作の言葉や動き」を工夫して入れるのも良いでしょう。(基本は呼びかけなしで成立します)

④ 『作曲者としての~ねがい~』

保護者の皆さまも、校歌から感受できるイメージを育てていただき、情意の溢れる「心の歌」としての存在価値を高めていただければ幸いです。

『作曲者の想い』

~渡邊秀之~